

7.17 (津田沼)総決起集会に結集しよう

日刊 勤労千葉

84. 7. 12
No. 1687

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二二二七二〇七

反撃への。さらさら支部代表者会議で意思一致

第八回支部代表者会議が、7月7日13時より動力車会館において開催され、6/7月反戦・反核トマホーク闘争の勝利的な総括と現在国鉄当局による「職場規律」を口実とした攻撃のエスカレート、基地統廃合を含む「60・3ダイ改」阻止にむけた当面する取り組みについて確認・決定しました。

「職場規律」攻撃の激化に反撃しよう

——中野委員長があいさつ——

会議は、山口副委員長の座長で進められ、はじめに中野委員長は「国鉄当局が『余剰人員』の活用として三本柱をうちだし、国労は公労委へ提訴をおこなった。7月10日前後に具体策が出される模様であり、千葉局においては『職場規律』の攻撃として現場管理者にハッパをかけている。津田沼電車区では、5月1日謀略的なビラハリ事件を契機として『乗務中の喫煙』を理由とした乗務停止攻撃が行われた。われわれは、こうした攻撃に対する反撃の一步として津田沼電車区において総決起集会を開催する。『60・3ダイ改』も7/8月は決着段階をむかえる。一方、三里塚闘争も昨日事業認定をめぐって東京地裁で反動判決があった。三里塚二期工事の切迫性のなかで反対同盟と固く連帯して10・10現地集会には、3・25をうまわる動員の実現をしたい」と挨拶しました。

水野副委員長が当面の取り組みを提起

続いて水野副委員長から第7回支部代以降の経過と国鉄における情勢が報告されました。「情勢」の中心軸は、当局が去る6月5日に発表した「余剰人員解消策」なる攻撃が、三万名の首切りへの突破口をなす重大攻撃であり、断固としてこれと対決していかねばならないことが強調されました。

具体的な経過としては、6月5日当局が、①一時帰休制の導入、②関連企業への出向、③勧奨退職制度の見直しによる退職促進、を発表。

一方、国鉄再建監理委員会の「国鉄を再建するには民営・分割以外にない」との考え方を受けて六月二一日、仁杉総裁は「民営・分割に基本的に賛成」との見解を表明。さらに国鉄当局は「余剰人員」の処理について7月10日前後に具体的方針を発表する動向にあること。

この攻撃に対して鉄労の積極的推進路線、動労「本部」の「再建フォーラム」に見られる腐敗と転落千葉局における検修合理化、4月期昇給の3項8号の強化に対する闘い、さらに三里塚二期着工をめぐる情勢の切迫化の報告をうけて質疑がおこなわれました。

各支部からは、それぞれ今日かけられているワッペン、服装の整理をテコとした現場の攻撃が強まっていることが報告され、最後に中野委員長のまとめと、団結ガンバローを全員で行い終了しました。

第八回支部代表者会議で決定した当面する取り組みは次のとおりです。

当面する取り組み

1. 現在着用中のワッペン闘争について、さらに徹底強化することとします。
2. 臨調・国鉄合理化粉碎、職場規律―執務態度厳正攻撃粉碎、7・17総決起集会を開催するとともに、各支部において不当な職場規律―執務態度厳正攻撃に対する摘発・抗議行動を強化することとします。
3. 7月18日発令予定の4月期昇給については、3項8号の適用および不当な昇給延伸に対して苦情処理委員会の活用、抗議の現場長交渉を行うなど、抗議行動を展開することとします。
4. 今日の国鉄情勢について、全組合員の認識の一致をはかり、反撃へ決起するより強固な意志統一をかちとるため、月一回の職場集会の定着化をはかります。
5. 検修要員の9月以降、営業への活用については、国労とも連携をとりながら、阻止するため全力をあげて取り組むこととします。
6. 三里塚闘争については、「成田用水」7月強行着工策動の強まる中で緊迫した情勢をむかえています。反対同盟の動員要請があった場合、即対応できる態勢を確立します。